

1. 巨大台風19号への対応と今後の防災対策は

世界的な異常気象の中、地球温暖化の影響か日本近海の海水温の上昇により、年々日本へ襲来する台風が大型化している。台風による雨も過去に経験したことのない豪雨となり、それに伴い河川の氾濫、浸水被害を引き起こしている。

今後も台風19号のような巨大な台風が毎年発生し、上陸する可能性がある。

今回の台風19号は、地球史上最大級との報道もあり、台風上陸前から多くの方々の防災意識は非常に高まっていたように思われる。

東海地方から関東地方へ上陸した台風19号は、各地で甚大な被害をもたらし、箱根では日本史上最大の1000mmの降雨、そして、酒匂川上流でも600mmを超える降雨量であった。

本町でも初めて避難準備・高齢者等避難開始の避難情報が発令され、水辺スポーツ公園は浸水の被害を受けてしまったが、幸いにして酒匂川氾濫という最悪の事態は免れた。

今回の台風19号への準備、対応を教訓とし、今後も起りうる巨大台風、豪雨にしっかりと備える必要があると考え、次の事項を問う。

- ① 台風19号への対応と今後の課題は。
- ② 洪水ハザードマップで浸水想定区域内の避難場所についての見解は。
- ③ 三保ダムとの連携状況は。
- ④ 酒匂川右岸の霞堤の現状と課題は。